

現代工芸美術界を代表する漆芸家。文化勲章受章。名誉市民。

高橋節郎 (たかはし せつろう)

南安曇郡北穂高村狐島 (現 安曇野市穂高) 出身
穂高町名誉町民 (現 安曇野市名誉市民)

<高橋節郎が活躍した時代> 1914 (大正3) 年~2007 (平成19) 年 享年92歳

大正3 昭和							平成																
5	7	15	37	40	51	53	57	2	7	9	15	19											
穂高狐島にて誕生。	松本中学校を卒業。	展覧会に出展。受賞を繰返す。	選風一ひをなげし(文二六)小	選以賞。多回数に入	代工芸美術1回日本現	協会の第1回美術展	た、現成に美術加わつ	前年結成に美術加わつ	日本芸術院賞受賞。	進部の指導に就任し、美術後	東京芸術大学美術家協会	現代工芸美術家協会	任。穂高町名誉町民	日展常務理事に就任。	文化功労賞を受賞。	館と高橋節郎館が開	授となる。豊田名誉教	東京芸術大学名誉教	文化勲章を受章。	館が開野高橋節郎美術	北穂高の生家の地に	安曇野高橋節郎美術	死去。従三位に叙

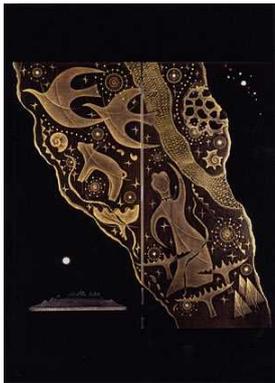


僕は安曇野で育った。子どもの頃の安曇野というのは、夜は漆黒の闇だった。手を伸ばせば星が手に届きそうなところに輝いていた。

鎗金という技法を駆使し、黒と金を基調に独自の漆芸術の世界を創り出した人物

たちは帰りを惜しみながら夕陽当たる水晶山を振り返り、振り返り帰る。名残惜しくてしょうがない、まだまだ遊びたい、でももう帰らなければいけないという時に、振り返り振り返り見たその水晶山が、夕陽を浴びてきらきらと光っていた。その輝きが今でも忘れられない。これが私の創作の原点です。」(日曜美術館インタビューより)

「星空円舞」1991年(平成3年) 「満天星花」1992年(平成4年)



漆屏風：1760×1730mm 漆屏風：1760×1730mm
信州の星空をじーっと眺めていると、その中に自分自身が吸い込まれていくような感じがする。すると、闇の中からいろいろな形が浮かび上がってくる。漆黒の天空に現れる、動物の姿、人物や妖怪。そんな少年時代のイメージが、私の作品のモチーフを生み出している。
(『安曇野高橋節郎記念美術館』より)

「神々の山」1998年(平成10年)



乾漆立体作品：770×380mm
通称 水晶山という山があった
子どもの頃 水晶を掘りにいった
あちこち掘ってはみたが
水晶は出なかった
夕暮れとなり 夕日にキラッと光るものを見た あれが水晶か・・・
明日はあそこを探そう
(『安曇野高橋節郎記念美術館』より)



「ひなげしの図」
1950年(昭和15年) 漆屏風



「バラとカラジウム」
1950年(昭和15年) 漆パネル



「豊松の島」
1993年(平成5年) 漆師盤



『安曇野高橋節郎記念美術館』に行ってみよう！

美術館では安曇野の自然、星空・山々・四季・古墳など、壮大かつ幻想的な作品を見ることが出来ます。漆作品、墨彩画、書など。高橋節郎生家もあります。

〒399-8302長野県安曇野市穂高北穂高 408番地1 TEL 0263-81-3030 FAX 0263-82-0551
観覧料 高校・大学生(個人)300円・(団体)250円/一般 400円(個人)・350円(団体)

参考文献：「生誕百年高橋節郎展」「安曇野高橋節郎記念美術館」安曇野高橋節郎記念美術館 編集発行
「高橋節郎 漆 黒と金の物語」高橋節郎 著
「安曇野教育6号山根基世元NHKアナウンサー講演会記録より」安曇野市教育会
参考HP 「高橋節郎美術館」 「安曇野市ゆかりの先人たち」 「安曇野アートライン北アルプスの麓」

